

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう！主に癒され、整えられて」

＜先週の説教から＞

『ミカ ⑮—あなたの杖をもって、御自分の民を牧してください』 武田真治牧師

ミカ書 7：11—16 ヨハネ黙示録 2：24—29

ミカ書を連続して読み進めて来ましたが、いよいよ最後の7章に入っています。今までの内容を概観しますと、ミカは故郷のモレシエト（＝地中海沿岸のパリシテ国に隣接したユダ王国の村）に於いて、神様から預言者としての召命を受け『首都エルサレムに向かい、その住民にこのままでは裁きが行く』と伝えるように召されたのでした。そして、その言葉に従い、エルサレムへ行き、人々に語り掛けたのでした。

しかし、人々は『たわごと言うな。そのような災いは起こらない』と彼を受け入れることはなかったのです。当時のエルサレムの祭司や預言者たちは『主は我々の中におられる（＝エルサレム神殿がある）ではないか。災いが我々に及びことはない』と言っていました。ただ、まもなくアッシリアが攻めてきて、北イスラエルを滅ぼし、やがてユダ王国にも侵入しエルサレムを包囲した時には、民もヒゼキヤ王も悔い改めて、主に祈ったのですが、その危機も過ぎ去るとまた元に戻ってしまったのでした。しかもそれだけでなく、北が滅んだことにより流民が大量にエルサレムに流れ込んだことで土地や物価が高騰し、またダマスコからエジプトへの貿易の道も開けたことにより、人々はお金儲けに奔ることになり、真の悔い改めにはほど遠くなったのでした。

この状況にミカは7章2節で「主の慈しみに生きる者はこの国から滅び、人々の中に正しい者はいなくなった」と嘆き、今日の箇所13節でも「大地は荒れ果てる。そこに住む者の行いの実によって」と、もはや裁きが来ることは避けられないと。これがミカの預言の結論と言ってよいでしょう。結局、ミカの言葉は彼らには届かず、無視されたのでした。

故にもうここでミカの言葉は終わってもよいはずでした。しかしミカは付け加えるのです。それが14節の「あなたの杖をもって、御自分の民を牧してください。あなたの嗣業である羊の群を」です。これは預言ではなく”祈り”です。エ

ルサレムの住民を神様ご自身が導いてあげてくださいという”執り成しの祈り”なのです。すごいと思うのは、最初に申しましたように、あれだけ自分のことを悔り、拒否した住民たちのことを神様に守ってくださいと祈っている点です。とても教えられることではないでしょうか。

そして、何よりすごいことは、そのミカの祈りに対して、神様がすぐに答えられた言葉が実は次の15節なのです。即ち「お前（＝イスラエル）がエジプトの地を出たときにように、彼ら（＝エルサレムの住民）に驚くべき業をわたし（＝神様）は示す」です。これはいつか必ず、奇跡的な救いのみ業を神の民に降すであろうという約束の言葉なのです。これがまさにキリストの御降誕ではないでしょうか。このミカこそ、既に、5章1節で、救い主はくべツレヘムにお生まれになる＝くべツレヘム預言>を為しているのですから！

【今週の集会】

*聖書研究・祈禱会 I. 1月17日（水）20：00
II. 1月18日（木）10：30

聖書：ハイデルベルク信仰問答

祈禱主題：祈禱会を覚えて

担当者：（水）飯島 （木）小岩

祈りに覚える人：羽倉さん 橋本さん

ハンナの会：1月16日（火）10：30～

【教勢報告】

主日礼拝 男25 女54 計79

祈禱会 I. 男6 女2 計8 II. 男1 女6 計7

日曜学校 幼稚科5 小中科14 計19

【次週主日礼拝】 1月21日（日）

聖書：イザヤ書 40：6～11

ルカによる福音書 1：1～5

説教：「ルカ①—私たちの間で実現したこと」
武田真治牧師

讃美歌：8(1)、32、128(1～3)、
446(1～3)、55(1～3)、29

【次週当番表】

司式：飯田長老 奏楽：中村 礼拝：金刺長老

献金：相浦 浅井 受付：飯島 吉岡

会堂準備：小杉 富澤 長田 橋本 北條

看板：曾我 週報：吉岡 お花：羽倉

【次週集会予定】

礼拝前：・求道者会 ・聖書輪読会

礼拝後：・牧師と語る会 ・お茶の会 ・日曜学校教師会

・オリブの葉編集委員会・幼稚園理事会

・改長協委員会

2024年 1月 14日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>